

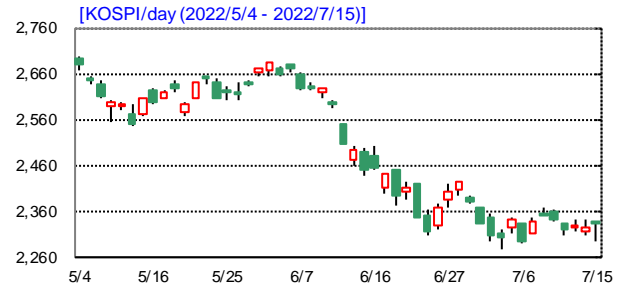


【韓国】 総合指数は週間で0.8%安と反落、今週は2300ポイント台で推移か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.8%安と小幅に反落。国内や中国での新型コロナウイルスの感染再拡大を受け、景気後退懸念が高まった。もっとも、心理的節目の2300ポイント付近では下げ渋っている。週明け11日は軟調な中国株式相場や米株価指数に連れ安し、3営業日ぶりに反落。12日もは欧州のエネルギー問題を背景に世界経済の成長懸念が広がった。13日は3営業日ぶりに反発。同日に韓国銀行（中央銀行）が0.5%の大幅利上げを決めたが、市場は想定通りと受け止め、イベント通過感から買いが入ったもよう。14日は、米国でインフレが高進し、米FRBが積極的な金融引き締めを継続するとの見方が強まったことで反落。15日は2300ポイントを割り込む場面があったものの、小幅反発で終えた。今週は2300ポイント台で推移か。

▼指数チャート

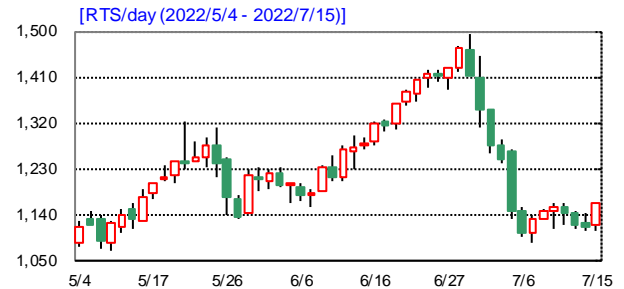


【ロシア】 RTS 指数は1.5%高と3週ぶり反発、今週も原油・為替相場が焦点か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は1.5%高と3週ぶりに反発。資源・エネルギー株が大幅安となったものの、ルーブル高が奏功した。商品相場の下落を受けて資源株やエネルギー株が大きく下げたが、ルーブルが対米ドルで急伸し、米ドル建てのRTS 株価指数を押し上げた。ルーブル建てのMOEX 指数は週間で5.1%安と大幅反落。ルーブルは対米ドルで前週末の62.40ルーブルから12.7%高の54.50ルーブルとなった。個別銘柄では、産金のポリメタル・インターナショナルが14.6%安、資源のルサーが11.3%安、ノリリスク・ニッケルが6.7%安、鉄鋼のセヴェルスターリが9.9%安、エネルギーのロスネフチが5.9%安、ガスプロムが5.2%安、ルクオイルが5.2%安と大幅に下落した。今週は原油やルーブル相場をにらんだ展開が続くか。

▼指数チャート

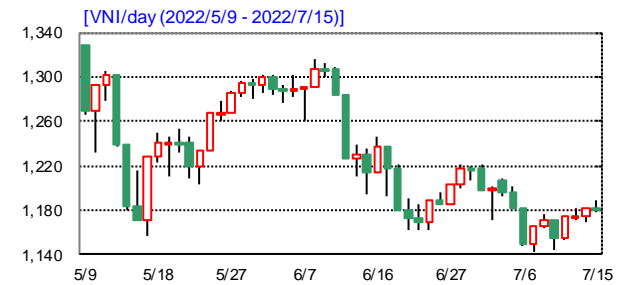


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.7%高と反発、今週はもみ合う展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%高と反発。大企業トップへの規制のうわさで下落してスタートしたが、それが否定されたことや、決済期間短縮の見通しなどが好感された。週明け11日は大企業のトップに対する規制のうわさで売りが強まったが、公安当局が否定したことで12日は主力株が軒並み買い戻された。その後もT+2の決済システムが8月から導入されるとの見通しが好感され、証券株の上昇なども相場を支えた。指数は週明け11日に1.4%下落したが、12日は1.7%高と反発し、14日は0.7%上昇した。個別銘柄ではベトナム・ラバーが9.2%、ベトインバンクが4.2%、SSI証券が3.4%上昇した一方、モバイル・ワールド・インベストメントが5.4%、テクコムバンクが3.9%、マサン・グループが3.5%下落した。今週はもみ合いか。

▼指数チャート

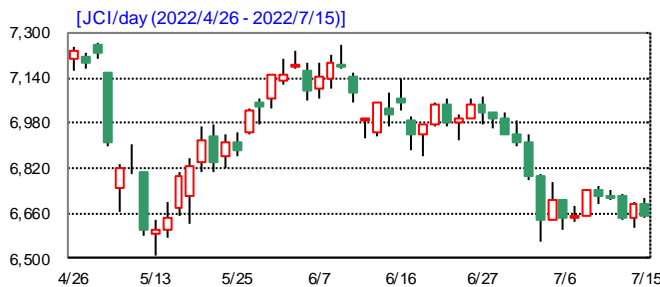


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 1.3%安、今週は 21 日に中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 1.3%安と 3 週続落。外部要因が指数下落を主導した。週初の 11 日は中国株が新型コロナウイルスの感染拡大で大幅安となったことに連動して、3 営業日ぶりに反落。12 日に小幅続落すると、13 日は米国の 6 月の CPI 発表を目前に買い控えの動きが広がり、指数は前日比 1.2%安と終値で 4 日ぶりに 6700 ポイントを割り込んだ。14 日は金融株を中心に買い戻されたが、15 日は 6 月の貿易収支が市場予想を上回ったものの、中国の 4-6 月期の GDP が前年同期比 0.4% 増と低成長だった影響で、反落して取引を終えている。今週は 21 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する予定。

▼指数チャート

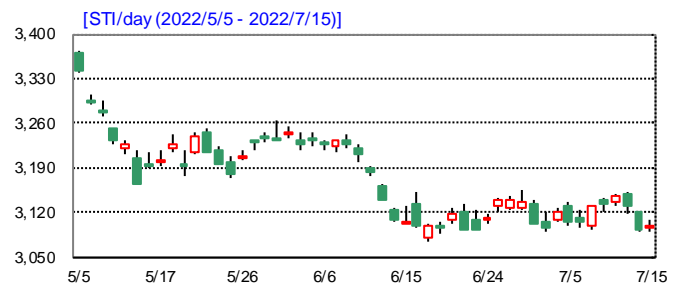


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 1.0%安、4-6 月期 GDP 速報値の下振れを嫌気

スเตรツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.0%安と反落。インフレ加速に対する警戒感の広がり嫌気された。連休明けの 12 日は銀行大手 3 行が指数上昇をけん引し、3 営業日続伸した一方、13 日は米国の CPI 発表を目前に控えた様子見で反落。14 日は 4-6 月期の GDP 速報値が前年同期比 4.8%増と市場予想の 5.2%増から下振れしたほか、金融通貨庁が予想外の金融引き締めを決定したことが売り材料となり、指数は前日比 1.2%安と続落した。15 日は 3 日ぶりに反発して引けている。今週は 19 日のイエレン米財務長官の講演や、21 日に開催される欧州中央銀行 (ECB) 理事会が株式相場を左右する展開か。

▼指数チャート

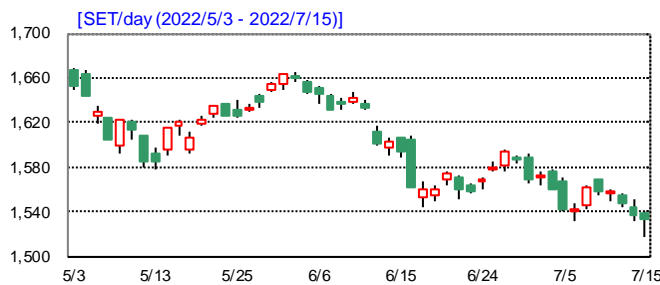


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.6%安、今週は 6 月の貿易統計に期待

SET 指数は 4 日間の取引で 1.6%安と続落。じりじりと下値を広げ、週末まで 5 営業日続落した。週初の 11 日は、中央銀行が観光産業の回復に伴い 23 年 1-3 月期の国内経済がコロナ前の水準に回復するとの見方を示したものの効果は薄く、指数は前週末からほぼ横ばい。12 日は米 CPI 発表を控えた様子見や中国の都市封鎖の再導入に対する警戒感に加え、米ドル高パーツ安も売り材料視された。祝日を挟んだ 14 日は原油価格の下落を受けてエネルギー株が売られると、15 日は中国の GDP の内容が嫌気され、金融株が指数下落を主導している。今週は 22 日に 6 月の貿易統計 (通関ベース) が発表される予定。

▼指数チャート

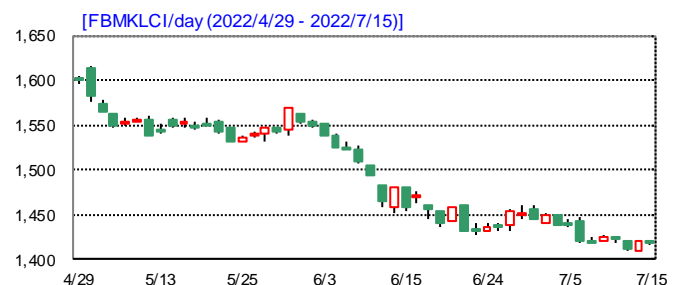


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.5%安、今週は 22 日に 6 月の CPI 発表

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.5%安と続落。一進一退の値動きが続いた 1 週間だった。連休明けの 12 日は前週末からほぼ横ばいだったが、13 日はプランテーション株とエネルギー株の利益確定売りが指数下落を主導し、前日比 1.0%安と 3 日ぶりに反落。14 日は米国の 6 月の CPI 上昇率が約 40 年半ぶりの高い伸びとなったものの影響は軽微で反発した。ただ、15 日は世界的に広がる金融引き締めへの警戒感から売り優勢となり、反落して取引を終えている。今週は 20 日に 6 月の貿易統計、22 日に CPI が発表される予定。加速する米ドル高リング安が一服すれば株式相場の支援材料になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。